

商店街に複合施設、ゴルフ場でウォーキング…

# 地域課題解決 社高生が提言

地域活性化や新商品開発など、地元企業から与えられた課題の解決案を社高校（加東市木梨）3年生が考え、プレゼンテーションで披露する授業が開かれた。商店街ににぎわいを生む複合施設の設計や、ポイ捨てを減らすためのごみ箱のデザイン、ゴルフ場に人を呼ぶウォーキングイベントなど、知恵を絞ったアイデアが次々と登場。出席した企業関係者や大学教授らをうならせた。（岩崎昂志）

### 加東

同校普通科の「総合的な探究の時間」の一環で、社会での課題発見や解決の力を磨く。協力した市内企業・団体は、東条湖リゾート・東条の森カントリークラブ▽アスカカンパニー▽MACS▽加東市商工会。3年生約150人は昨年度から事業所見学や社員への聞き取り調査を重ね、今の聞き取り調査を重ね、今

のが楽しくなるようなキヤクター型のごみ箱が提案され、課題を出したアスカカンパニーの門脇弘朋・管理本部長は「調査や議論に力を入れてくれ、日常生活でしっかり意識してくれた」と受け止めた。ゴルフ場の若者ファン獲得のプレゼンでは、おしゃれなファッションで景品がもらえる制度や流行のピクニックを取り入れた企画案が出され、東条の森カントリークラブの小林裕次副社長は「若者のコミュニティづくりに貴重な提案。今後に生かしたい」と評価した。



企業が出したミッションの解決アイデアを発表する社高校生  
＝加東市山国、兵庫県立教育研修所

3年生 知恵絞ったアイデア次々

大学教授らによる審査で最も評価されたのは、商店街の空き店舗を活用する課題に対するプレゼン。勉強部屋や親子ルーム、カラオケなど多世代が集う複合施設を設計した。利用者が自動販売機で各部屋の鍵を購入する仕組みで、コスト抑制の視点も光る。発表した高森蛍さん(17)は「実際に空き店舗を見に行つて間取りも考えた。地域のことを突き詰めて考えるのって、思った以上に楽しかった」と、同級生と喜び合った。